

|      |              |  |  |  |  |  |  |     |  |
|------|--------------|--|--|--|--|--|--|-----|--|
| テーマ  | 現金預金と有価証券（Ⅱ） |  |  |  |  |  |  |     |  |
| 学籍番号 |              |  |  |  |  |  |  | 氏 名 |  |

## 1. 次の文章の空欄にあてはまる語句を答えなさい。

- ・（ ① ）とは、もともと派生物という意味であり、株式・債券・預貯金などの伝統的な金融資産から派生してきた新しい金融取引をいう。なお（ ① ）取引に係る契約は、一般の金融資産及び金融負債とともに（ ② ）と総称される。
- ・ある財貨の価格変動等による損失の可能性を減殺することを目的として、先物取引などの手段として利用する取引を（ ③ ）という。（ ③ ）において、相場変動等による損失の可能性を回避しようとする対象項目を（ ④ ）といい、その目的のために利用される（ ① ）などを（ ⑤ ）という。
- ・（ ⑥ ）とは、（ ④ ）の損益と（ ⑤ ）の損益を同一の会計期間に認識し、ヘッジの効果を会計に反映させるための特殊な会計処理をいう。（ ⑥ ）の方法には、（ ⑦ ）及び（ ⑧ ）とよばれる 2 通りの方法があり、「金融商品に関する会計基準」は（ ⑦ ）を原則としている。
- ・企業が現金収入の余剰を生み出す能力や、債務を返済する能力を評価するには、損益計算書と貸借対照表に加えて、収入・支出に関する情報が必要になる。この情報は現金収支の流れを表したものであることから、（ ⑨ ）とよばれる。わが国の（ ⑨ ）が対象とする資金の範囲は、現金及び（ ⑩ ）に限定されている。
- ・企業の資金の変動をよりいっそう適切に表示するには、企業が営む活動の種類に応じて、キャッシュ・フローを区分するのが有効である。この目的のために企業活動は、（ ⑪ ）、（ ⑫ ）、（ ⑬ ）という 3 つに区分される。（ ⑪ ）は、企業が主として営む事業に関連する活動であり、（ ⑫ ）は、設備投資、証券投資、融資の 3 つから構成される。最後に、（ ⑬ ）は資金の調達と返済からなる。
- ・（ ⑨ ）の 3 区分のうち、（ ⑪ ）の区分の作成と表示の方法には、（ ⑭ ）と（ ⑮ ）の 2 通りがある。これに対し（ ⑫ ）と（ ⑬ ）の区分について存在するのは、（ ⑭ ）だけである。

|   |         |   |         |   |              |
|---|---------|---|---------|---|--------------|
| ① | デリバティブ  | ② | 金融商品    | ③ | ヘッジ取引        |
| ④ | ヘッジ対象   | ⑤ | ヘッジ手段   | ⑥ | ヘッジ会計        |
| ⑦ | 繰延ヘッジ会計 | ⑧ | 時価ヘッジ会計 | ⑨ | キャッシュ・フロー計算書 |
| ⑩ | 現金同等物   | ⑪ | 営業活動    | ⑫ | 投資活動         |
| ⑬ | 財務活動    | ⑭ | 直接法     | ⑮ | 間接法          |